

## 西濃農林事務所の普及活動状況（令和7年3月）

### 今月の重点活動

#### ■有機(水菜) 第3回西濃地区有機農業推進プロジェクトチーム会議の開催

農林事務所は、3月14日、JAにしみの神戸集出荷センターにおいて、有機農業推進プロジェクトチームの第3回会議を開催した。営農モデル実証は生産者・JA・神戸町役場が出席し、今年度の実証ほの結果や次年度の取り組みについて検討した。

当活動も3年が経過し、生産面では成果が上がってきた中、有機面積の拡大(補助事業の活用)や、販売PR活動(学校給食との連携)について、話し合いを行った。

また、産地(下宮青果部会協議会)内で普及拡大を図るため、4月の協議会において、当活動の成果を報告することとした。



【会議の様子】

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■土地利用型作物 (農) おぐれファーム設立総会の開催

輪之内町では、土地利用型農業の担い手である営農組織の法人化へ向けて、町、アグリチャレンジ支援センター、JAにしみの、農林事務所らの支援が活発に行われている。

3月23日には、(農)おぐれファームの設立総会が開催された。議事では、設立趣意書や定款案などが説明され、全事案が承認され、ここに組合員30名の農事組合法人が設立されることになった。

農林事務所では、今後も集落営農組織の法人化、経営安定に向けて支援を継続していく。



【設立総会の様子】

#### ■農業経営改善・海津市農業経営者 トヨタ生産方式のカイゼンを学ぶ

2月25日、海津市役所において、海津市主催「令和6年度海津市農業塾(トヨタ自動車によるカイゼン研修会)」が開催された。いちご、トマト、水田農業の法人、畜産等の経営者等11人が受講し、農林事務所も市役所とともに参加した。

トヨタ自動車(株)の講師から、『生産現場(作業現場)で「異常」がある場合は作業を止める。「異常」の特定が重要。「異常」を判断(誰でも同じ判断)するには基準、標準を決めることが必要(標準のないところにカイゼンはない)』等の講義を受けた。

また、農作業現場の事例動画を基に、問題点を話し合うグループ討論が行われた。



【グループ討論の様子】

#### ■水稻・土地利用農業者 養老町水田農業担い手協議会研修会の開催

3月11日、養老温泉ゆせんの里で、農林事務所及び全農岐阜の担当が講師となり、水稻の高温対策をテーマに研修会が開催された。

農林事務所は、白未熟粒の発生メカニズムを解説後、出穂後の水管理や肥培管理を提案した。全農岐阜からはカメムシ類や紋枯病防除を中心に病虫害防除の説明が行われた。

養老町では、畜産農家へ稲わらを年間1,000t前後供給し、水田土壌内のケイ酸等が不足する原因で、白未熟粒の発生が助長される被害がここ数年、問題となっている。このため、ケイ酸質の土づくり資材で高温対策に取り組むよう助言した。



【研修会の様子】

## ■女性農業経営アドバイザー 西濃ブロック総会の開催

3月21日、令和6年度GLAMAいきいきネットワーク西濃ブロック総会が、大垣市内で開催された。農林事務所は事務局運営にあたった。総会では各議案の説明が滞りなく行われ、全議案が承認された。

今年度、西濃管内では2名が退会となる。退会者からはアドバイザー活動を通して人とのつながりが広がり、様々な知見を得ることができ、自身の経営にも活かされたとの思いが伝えられた。

次年度は新たに1名がアドバイザーに加わる。アドバイザー活動がより実りあるものになるよう、農林事務所は引き続き活動を支援していく。



【総会の様子】

## 安心して身近な「ぎふの食」づくり

### ■冬春トマト 海津トマト部会 んぎふ清流 GAP 審査

3月10・12・13日、海津トマト部会3名の生産者ほ場で、んぎふ清流GAPの審査が行われた。

昨年度の3名の申請に引き続き、今年度も3名の生産者で申請がなされ、部会内でんぎふ清流GAPに取り組む生産者の数が徐々に増えている。

ほ場審査では、農薬の保管状況や書類の整備状況などについての聞取りが行われた。生産者からは事前に改善した部分が審査にて評価されて良かったという反応や、今後の是正も前向きに取り組みたいという声があった。

農林事務所は、今後の是正措置の支援を行うとともに、部会での団体申請に向けた活動を推進していく。



【ほ場審査の様子】

## んぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■きゅうり 海津胡瓜部会 半促成・越冬栽培研究会の開催

J Aにしみの海津胡瓜部会は、3月4日、J Aにしみの海津営農センターにおいて、半促成・越冬栽培研究会を開催した。

開催前に、苗業社、J A、農林事務所等関係者ではほ場巡回を行い、各作型の生育状況について確認を行った。

研究会では、種苗業者から生育や品種特性を踏まえて、春に向けた栽培管理について説明が行われた。農林事務所は、天候の推移とそれに伴う生育状況、今後、気を付ける病虫害、産地独自GAPの点検による改善点について説明を行った。

また、2月に開催されたスマート農業研修で実演され、生産者からも好評であった「グランドドローンによる農薬散布」の動画紹介をあわせて行った。



【研究会の様子】

### ■フランネルフラワー 蕾径調査の継続的取り組み

農林事務所は、垂井町の生産者ほ場において、切花フランネルフラワーの開花予測につながる蕾径調査を行っている。

10月末より現在まで18回調査を行った。昨年度に行った調査では得られなかったが、本年度は充実させ、秋～冬期にかけて調査時期別の蕾径と開花時期との関係を回帰式で示すことができた。

次年度も継続的に週に1回の調査を予定しており、有利販売につながる情報提供を行っている。



【調査ほ場内の様子】